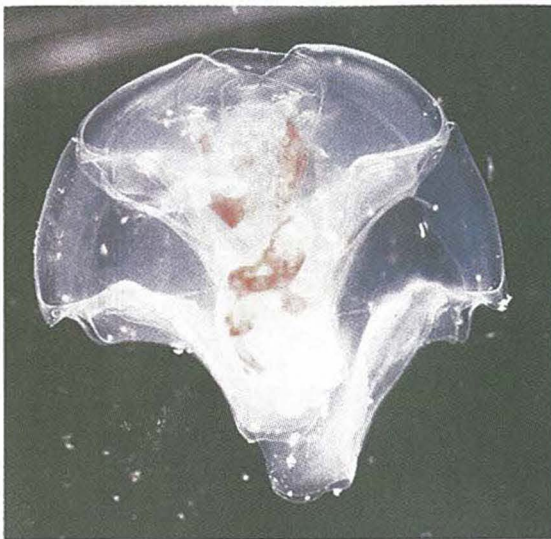


バテイクラゲ



さまざまな個虫が組み合わさってできているバテイクラゲ

久保田 信

40



バテイクラゲはいろいろな部品(個虫)からできている群衆である。いわば、それぞれの役割を持ったパーツを組み立てるプラスチックモデルのようなクラゲだ。パーツは外れやすく、すぐバラバラ

になってしまふ。組み立て終わった全体の形が馬蹄(ばてい)形をしているので、この和名が付いた。
バテイクラゲはヒドロクラゲ類としては比較的大型のクラゲで、体長が数メートルあるもので、肉眼でもよく分かる。バテイクラゲはヒドロクラゲ類の中の管クラゲ類に属する群衆性のクラゲだが、頂端に浮沈の役割をする気泡体のない分類群である。

手で触ると驚くほど堅い。その堅い透明な部分はゼラチン質の塊で、泳鐘(えいしょう)という部品だ。通常のヒドロクラゲ類をはじめ、大型の箱形クラゲや鉢クラゲ類には見られ

ないしっかりした泳鐘である。泳鐘は規則正しく複数が左右に並んでいる。バテイクラゲの泳鐘の数は最多で16個になる。写真の個体も実際はもっと大きくて、打ち上げ時にいくつか脱落したのかもしれない。

泳鐘全体が推進器で、おのの泳鐘はクラゲ形をしている。残念ながら、まだこの推進装置を使って遊泳する姿を見たことはない。どのくらいのスปีドで移動するのか分からない。

画像の個体は浜へ打ち上げられたので、弱って収縮している。赤いところは幹群で、いわばこのクラゲの本体のようなものである。左右2個ずつの泳鐘におのの幹群が収まっている。幹群には多数の餌を捕る栄養個虫や生殖個虫ができる。有性生殖や幼体からの発生はまだ分かっていない。太平洋をはじめ大西洋や地中海、そしてインド洋の暖海の沖合に広く分布する。

(京都大学准教授)